

## オーケストラの運営における財政的問題に関する研究

環境情報学部 4 年 木下修輔

オーケストラの運営における財政的問題に関する研究において、2021 年に計 3 回のインタビュー調査を実施した。当初の計画では日本のプロオーケストラの 4 団体に対して、インタビューを行う予定であった。しかし、インタビューを予定していたオーケストラの中で日程調整の連絡を取ることができなかった。そのため、インタビュー先を変更して 3 団体に絞る運びとなった。本報告書では、慶應 SFC 学会の助成を受けて行うことができたインタビューについて報告する。なお、倫理的配慮の観点から、インタビュー先の団体名はここでは伏せることとする。

### ○活動の目的○

昨今、クラシック音楽業界では、日本のオーケストラ団体の運営がプロにおいてさえ厳しいことがしばしば指摘されているが、プロオーケストラの厳しい運営実態やその直接的な原因は未だ明らかになっていない。こうした状況を踏まえ、本研究では、「オーケストラの運営における財政的問題」にはどのようなものがあるのか、という研究課題を掲げて研究している。研究を進めていくにつれて、本研究の研究領域がまだそれほど研究されてきていないことがわかり、オーケストラ運営関係者に対するインタビュー調査が必要性を認識した。

そこで、日頃からプロオーケストラの運営に携わるオーケストラの事務局の方を対象に話を伺うことで、プロオーケストラが直面している財政的問題の実態やその原因、その原因に対する団体の自助努力、団体が望んでいる支援の在り方などを明らかにすることを目的に、インタビューを実施した。

本活動は、インタビューを通じて、一般に公表されている情報からのみでは捉えきれない、特に、プロオーケストラの事務局として運営に関与しているからこそ見えてくる、オーケストラの抱える財政的問題等を探ることに主眼を置いている。そのため、インタビュー調査は非構造化インタビューによるものとした。

### ○活動内容および活動成果○

インタビュー実施の前にあらかじめ作成した同意書及びインタビュー経緯をメールで送付し、当日は 60 分から 90 分程度の時間でインタビューを行った。インタビュー実施当初は、「オーケストラの運営における財政的問題」の要因の一つにオーケストラの組織運営形態が大きく影響しているという仮説を立てていた。そのため、インタビューでは組織運営形態に関する質問をいくつか事前に用意しておき、その上で、話を聞きながら、より深掘りしたい内容を考えて実際に質問した。

インタビューを通じて、オーケストラの運営において、財政的な問題は山積しており、多くの場合が資金的な援助によって解決可能なものであることがわかった。しかし、資金的な援助は現実的ではなく、援助の方法も慎重に考えることが重要であることがわかった。また、財政的な課題は複雑に絡み合いながら相互に作用しており、偏に資金援助とは言っても、まずは課題の整理とそれらの個別的な対応について検討する必要性を感じた。そして、ヒアリングを通して今までにない新たな着眼点を得ることができた。

インタビューについては、インタビューの録音を全て文字起こし、M-GTA の手法を用いて分析する。分析結果は本研究の研究者によって卒業論文にまとめられる。

### ○終わりに○

オーケストラの運営における財政的問題に関する研究は先行研究が少なく、さらに、当該研究領域を研究している研究者も少ない。そのため、研究者本人が直接インタビューしに伺うことは必要不可欠であった。そんな中、本活動に際して、インタビューを快く引き受けてくださったインタビュー対象者の 3 団体の代表者の皆様、並びに、そして助成を行なってくださった慶應 SFC 学会に感謝申し上げます。本研究論文を通して、より多くの方にオーケストラの運営における財政的問題を認知してもらい、今後のオーケストラの活動が資金的に豊かになることを願っている。